

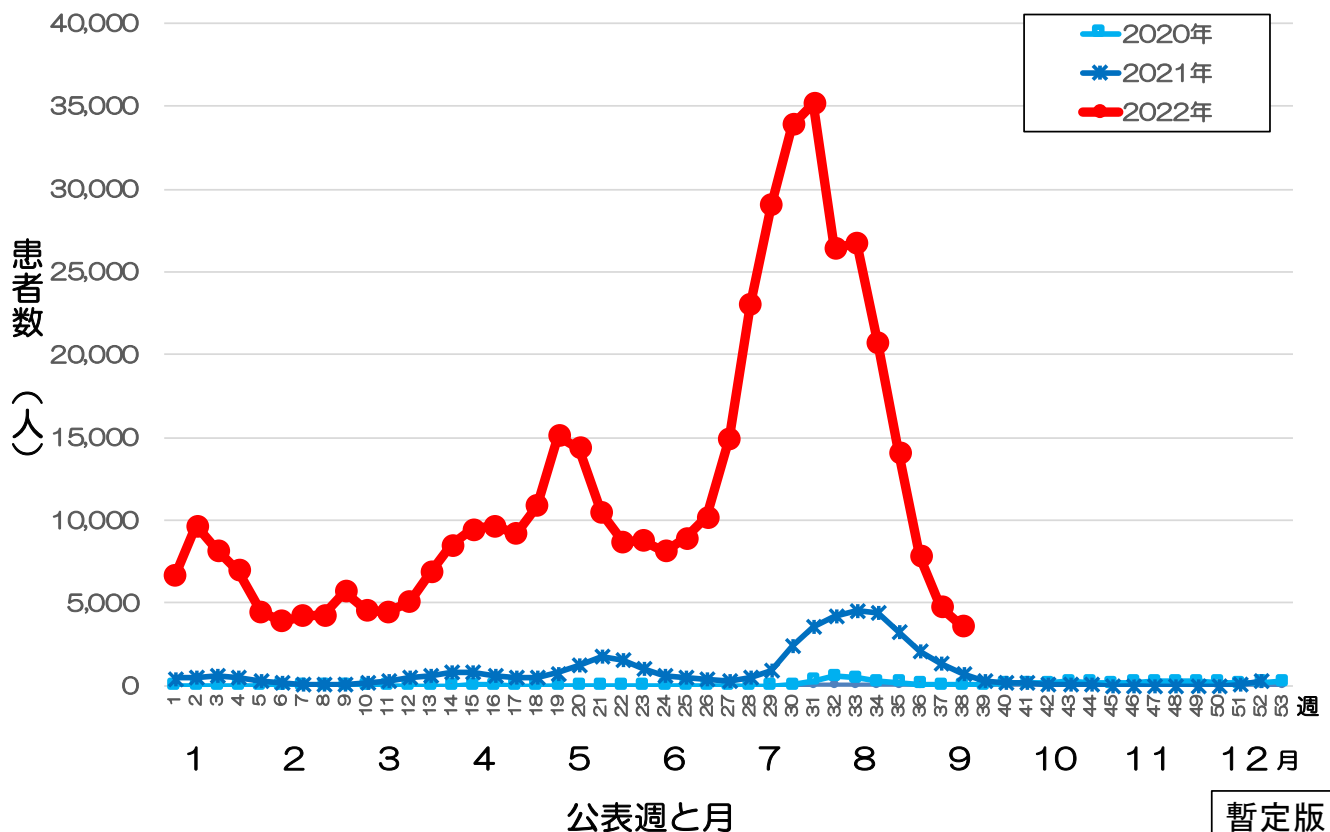
## 資料 2

### 仲宗根所長 提供資料

(那覇市の感染状況について)

# 沖縄県新型コロナウイルス感染者発生状況（公表週・年次別）

2020年1月1日～2022年9月25日

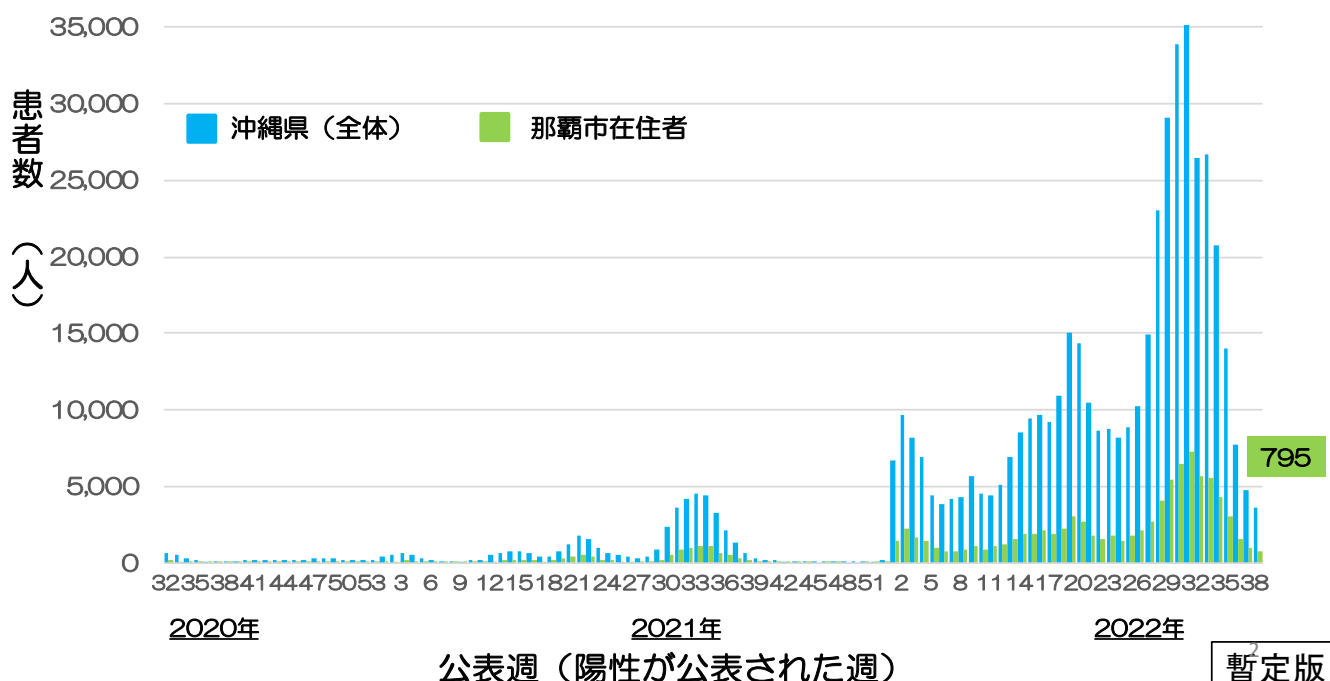


## 沖縄県新型コロナウイルス感染者発生状況（公表週）

2020年第32週(8月3日～9日)～2022年第38週(9月19日～25日)

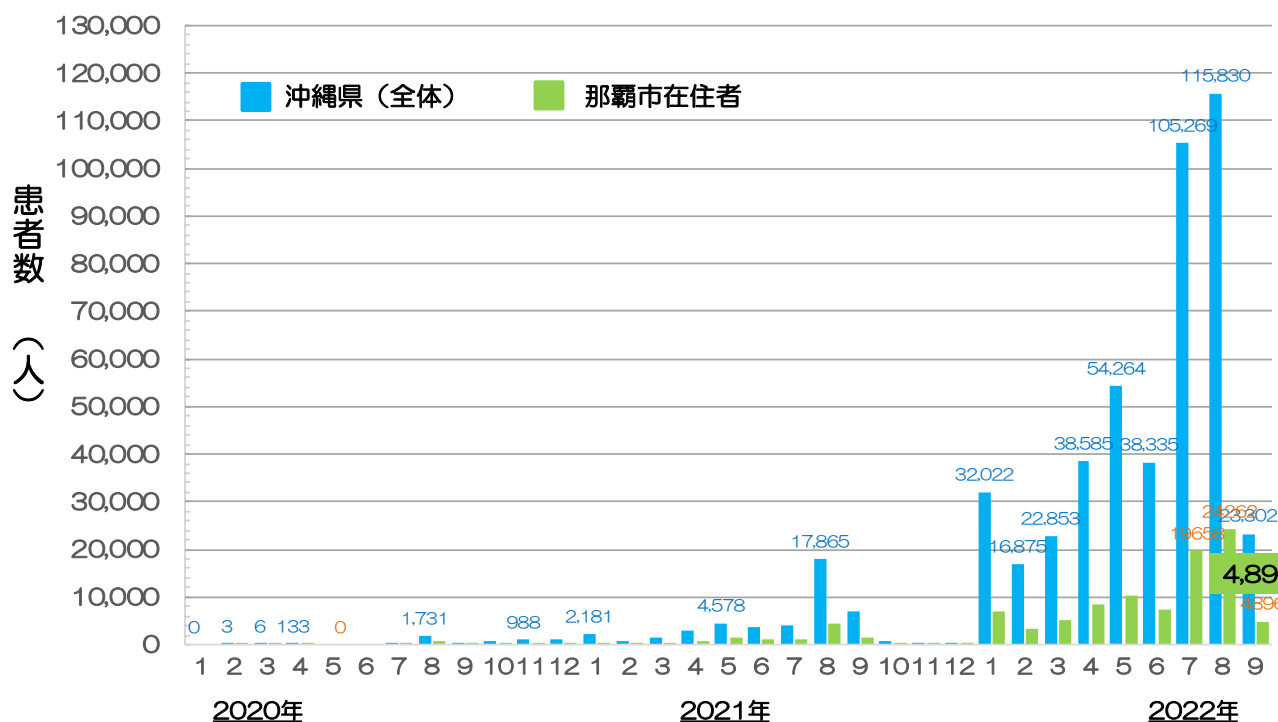
第38週は新規感染者3,572例が確認されました。

9月25日正午時点 入院：計165例（入院・待機・療養中：計3,560名、死亡711名）



## 沖縄県新型コロナウイルス感染者発生状況（公表月）

2022年9月は25日までに新規感染者23,302例が確認されています。



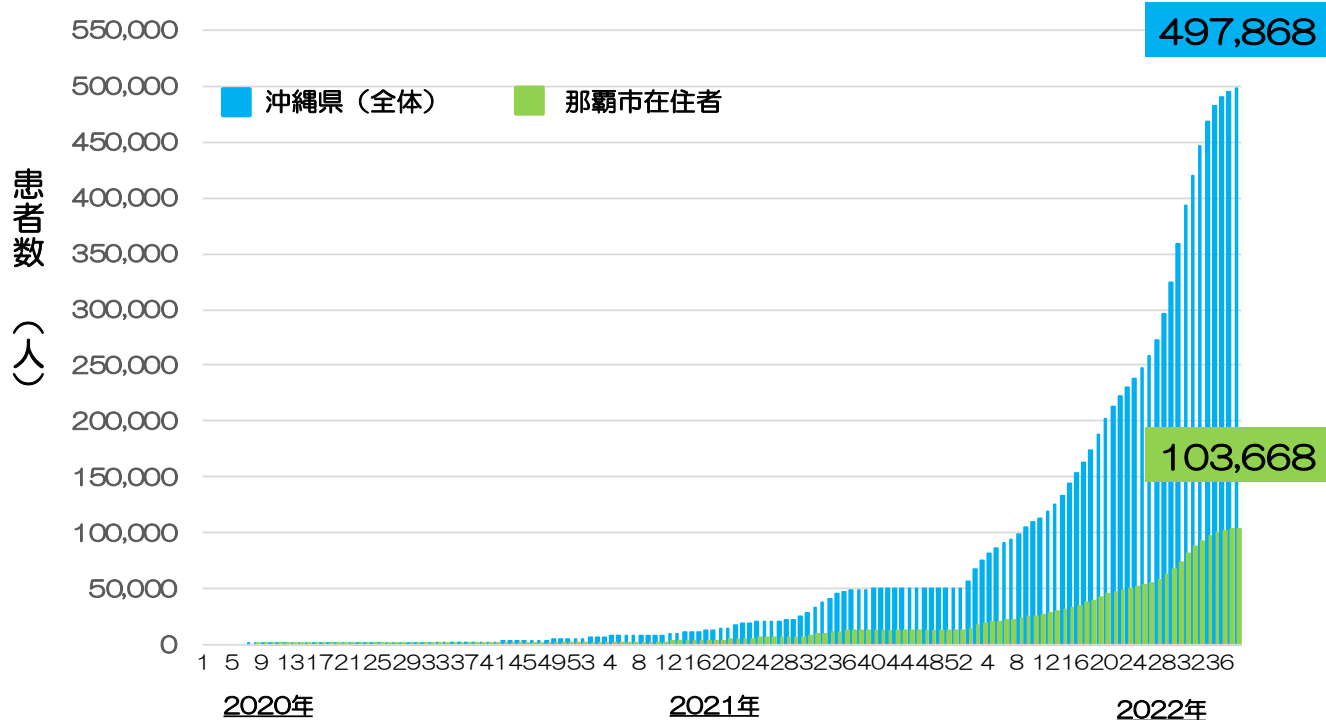
公表月（陽性が公表された月）

暫定版

## 沖縄県新型コロナウイルス感染者発生状況（累計）

2022年第38週(9月19日～25日)まで

警戒レベル第2段階「感染流行期」です！

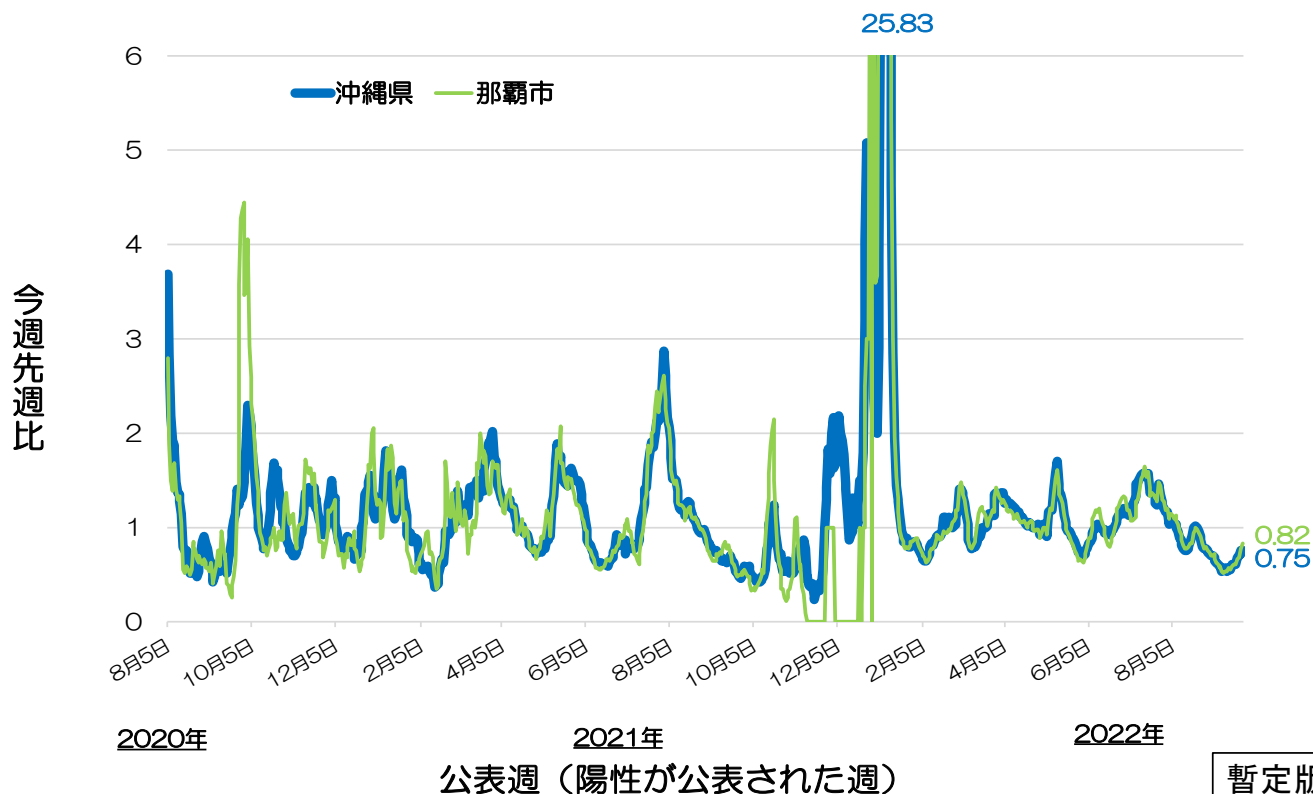


暫定版

# 沖縄県新型コロナウイルス感染者の曜日毎7日間前週比（公表日）

2020年8月5日～2022年9月25日

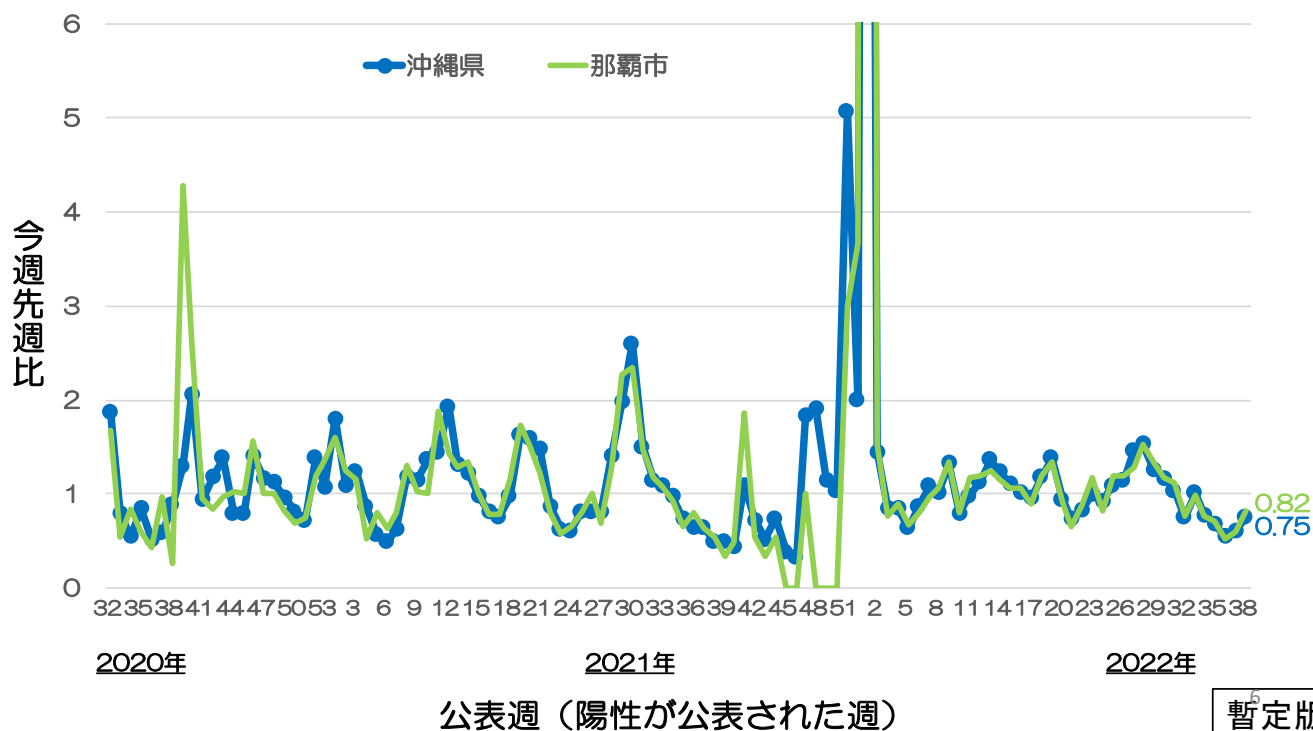
ピーク：1月9日



# 沖縄県新型コロナウイルス感染者の疫学週前週比（公表週）

2020年第32週(8月3～9日)～2022年第38週(9月19日～25日)

ここ3週は、0.55 → 0.61 → 0.75 と推移しています。



# 沖縄県新型コロナウイルス感染者の簡易実効再生産数（Rt）

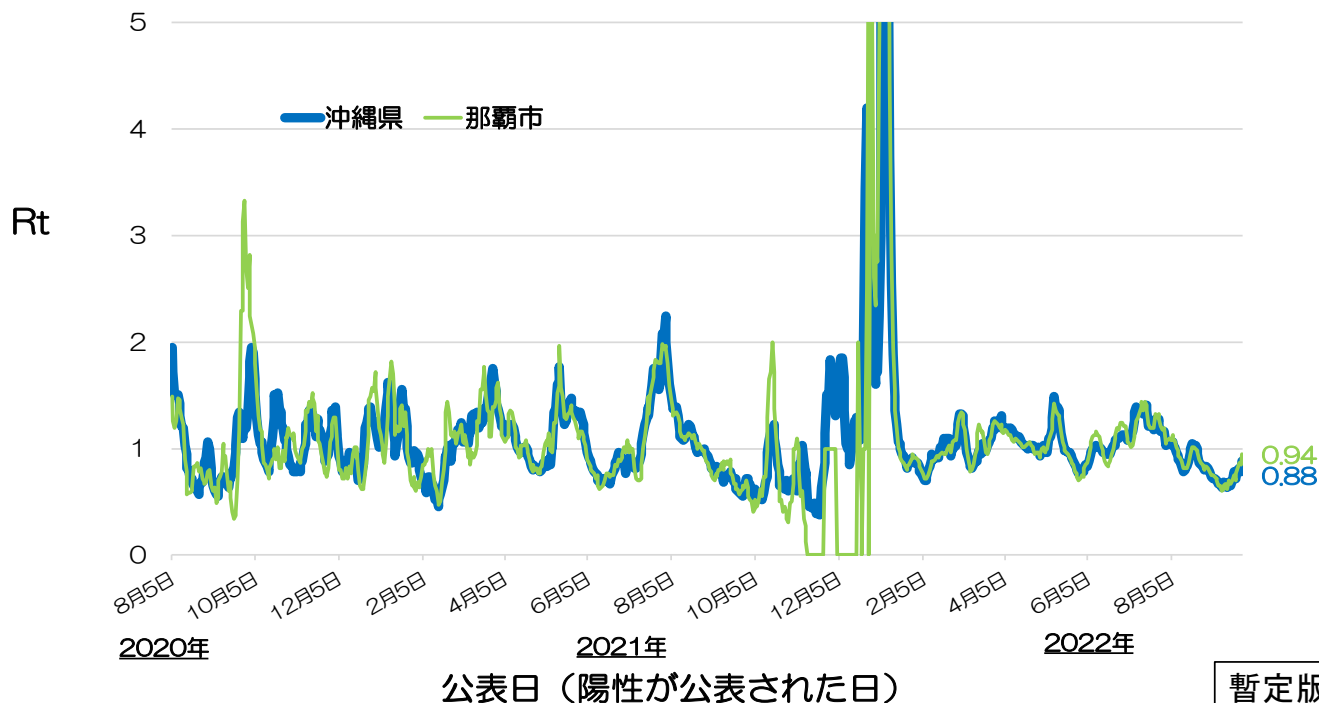
2020年8月5日～2022年9月25日

Rt=直近7日間の新規陽性報告者数/(世代時間) 日前7日間の新規陽性報告者数

\* 世代時間は5日間として算出

COVID-19感染報告者数に基づく簡易実効再生産数推定方法

(IASR Vol. 42 p128-129: 2021年6月号)



# 沖縄県新型コロナウイルス感染者の簡易実効再生産数（Rt）

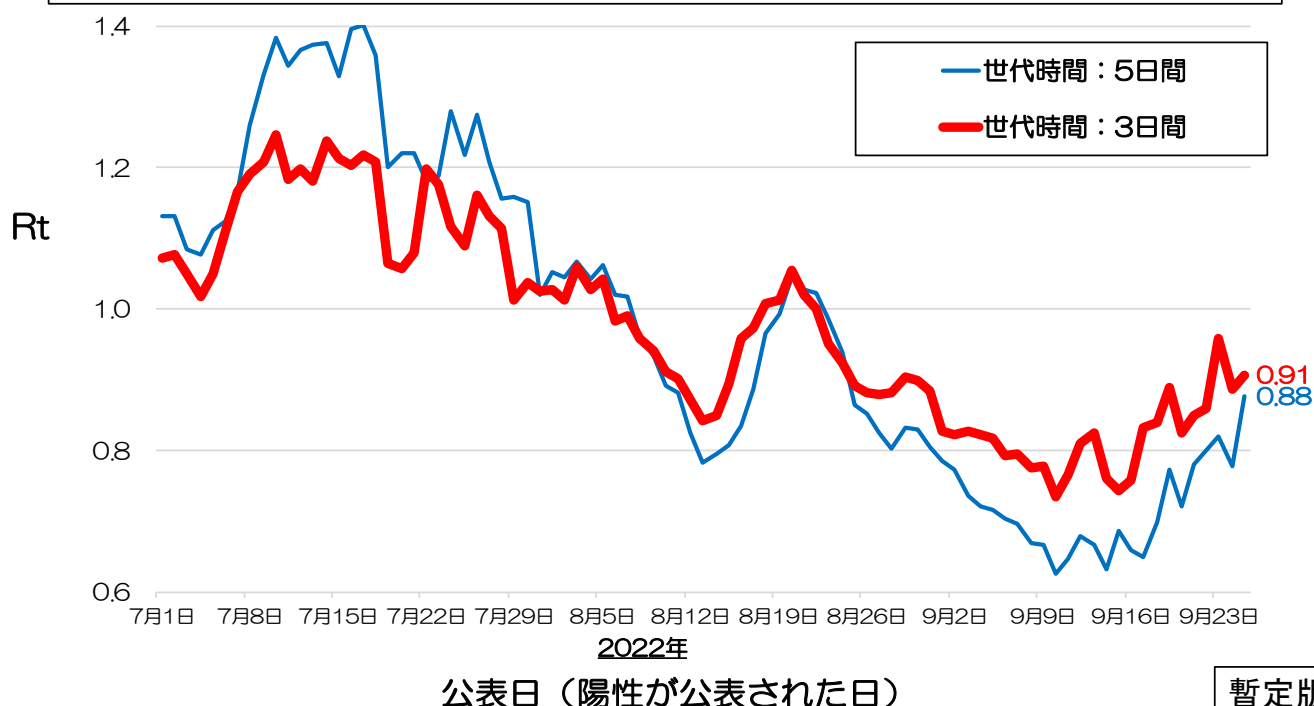
2022年7月1日～9月25日

Rt=直近7日間の新規陽性報告者数/(世代時間) 日前7日間の新規陽性報告者数

\* 世代時間は5日間と3日間で算出

COVID-19感染報告者数に基づく簡易実効再生産数推定方法

(IASR Vol. 42 p128-129: 2021年6月号)



# 沖縄県新型コロナウイルス感染者の簡易実効再生産数（Rt）

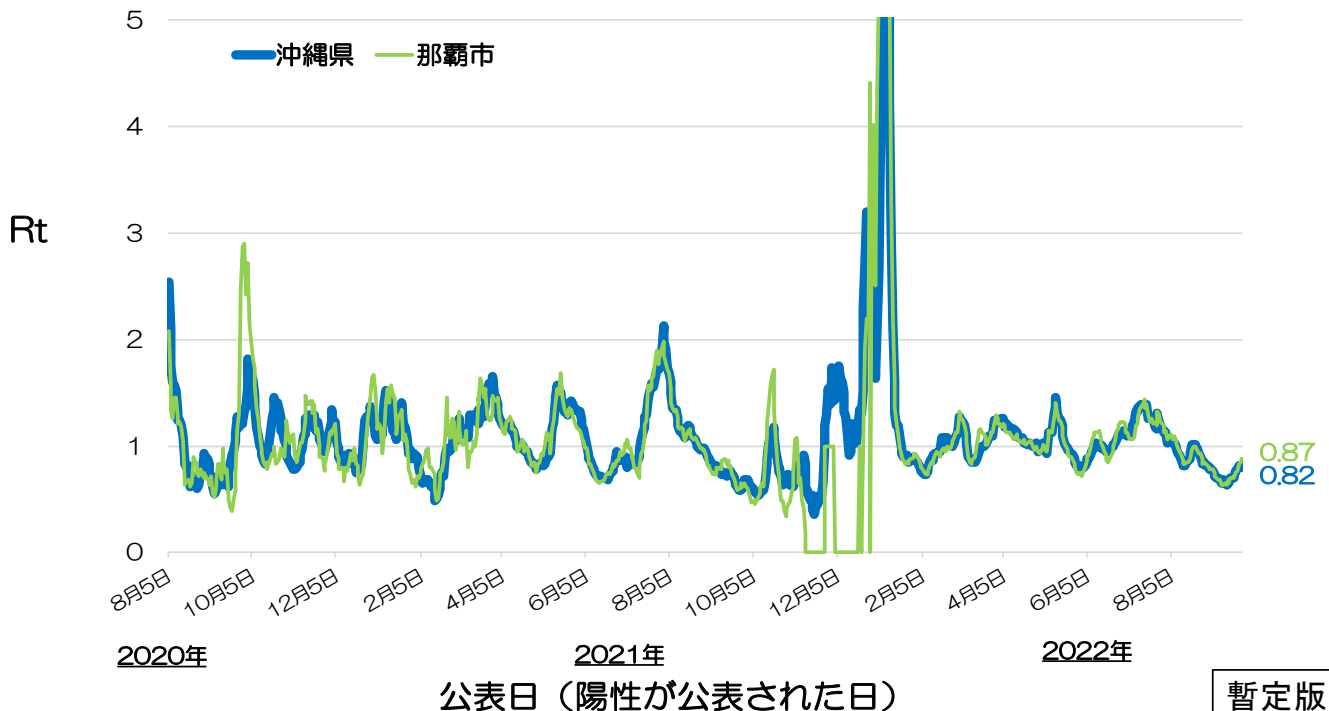
2020年8月5日～2022年9月25日

$Rt = [\text{直近7日間の新規陽性報告者数} / \text{その前7日間の新規陽性報告者数}]^{\text{世代時間} / \text{報告間隔}}$

\* 世代時間は5日間、報告間隔は7日間として算出

東洋経済が採用している算出方法

<https://toyokeizai.net/sp/visual/tko/covid19/>



# 沖縄県新型コロナウイルス感染者の簡易実効再生産数（Rt）

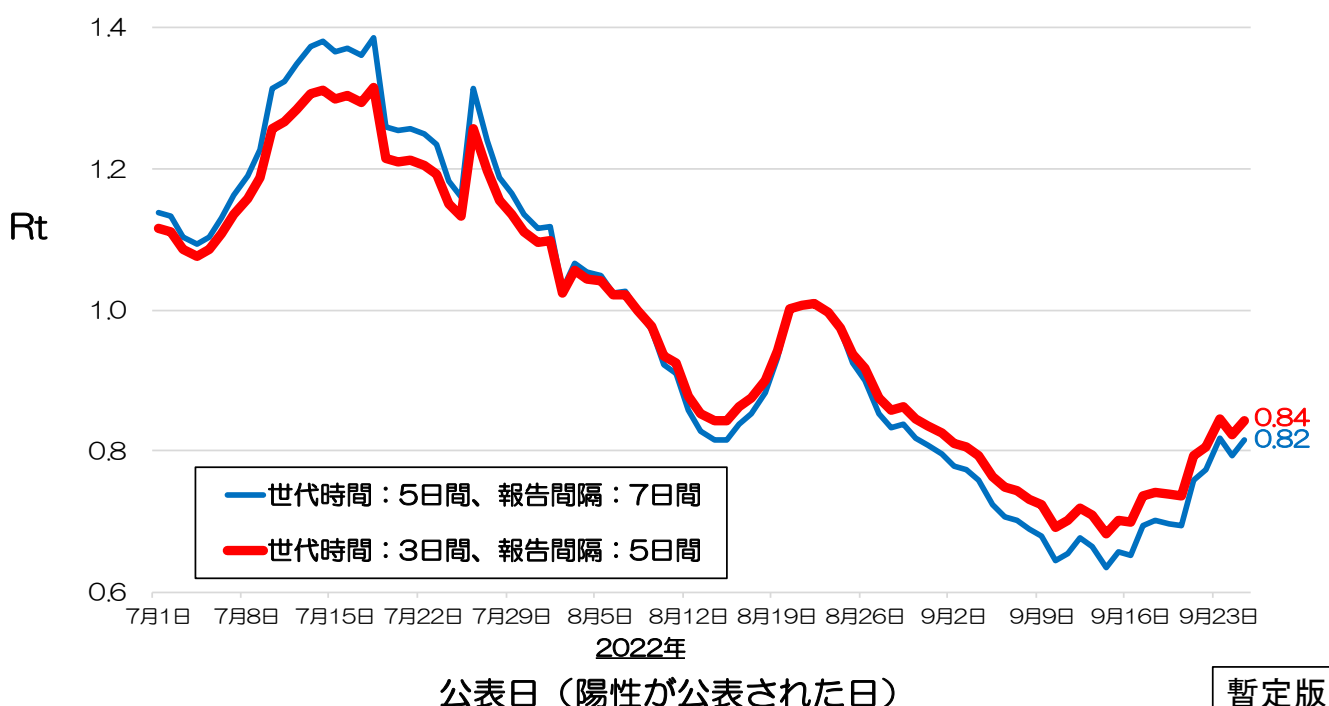
2022年7月1日～9月25日

$Rt = [\text{直近7日間の新規陽性報告者数} / \text{その前7日間の新規陽性報告者数}]^{\text{世代時間} / \text{報告間隔}}$

\* 世代時間5日間&報告間隔7日間、世代時間3日間&報告間隔5日間で算出

東洋経済が採用している算出方法

<https://toyokeizai.net/sp/visual/tko/covid19/>



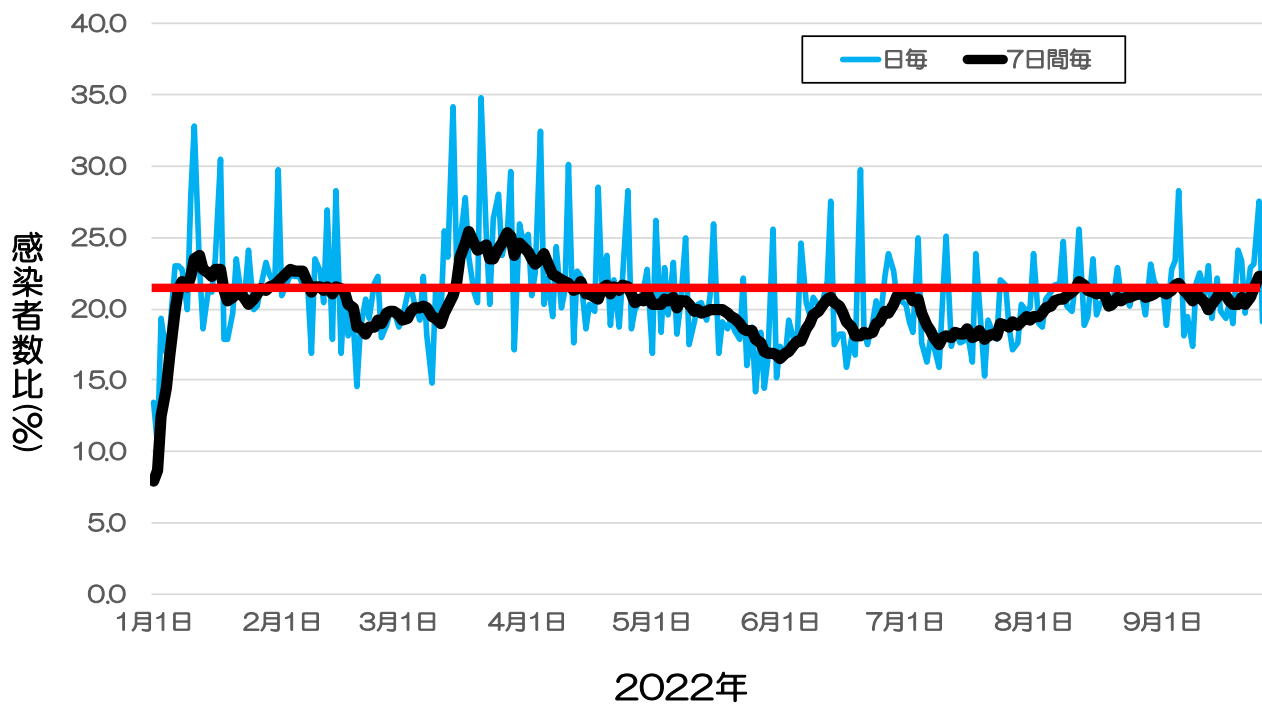
## 那覇市と沖縄県の新型コロナウイルス感染者数比

2022年1月1日～9月25日

赤線は人口比：21.6%

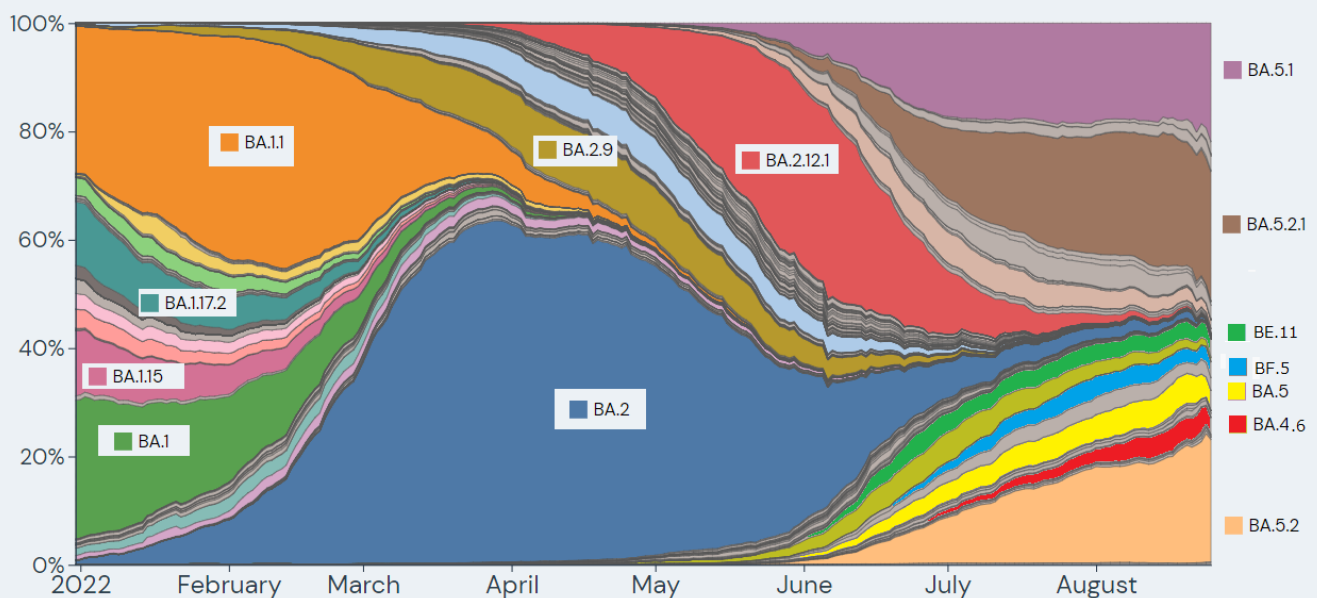
那覇市：317,390人（2022年4月末）

沖縄県：1,466,870人（2022年5月1日）



## 世界の新型コロナウイルス変異株流行状況（9月20日更新）

全世界におけるオミクロン株亜系統の割合の変化




東京都健康安全研究所センターHPより2022年9月25日にDL  
元データはoutbreak.info

## オミクロン BA.2.75\*検出状況（9月25日確認）

### Summary

As of 20 September 2022 05:26 AM, **5,974** sequences with the **BA.2.75\* [Omicron (BA.2.75.X)]** combined lineage have been detected since the combined lineage was identified:

location 	BA.2.75* [Omicron (BA.2.75.X)] found		when found**	
	total	cumulative prevalence*	first	last
India	3,720	4%	31 Dec 2021	15 Sep 2022
South Korea	80	1%	11 Jul 2022	6 Sep 2022
Japan	142	< 0.5%	13 Jun 2022	31 Aug 2022
United States	544	< 0.5%	14 Jun 2022	6 Sep 2022
<b>Worldwide</b>	<b>5,974</b>	<b>&lt; 0.5%</b>	<b>31 Dec 2021</b>	<b>15 Sep 2022</b>

outbreak.info より2022年9月25日にDL

## オミクロン BA.2.75\*検出状況（9月25日確認）

### Average daily BA.2.75\* [Omicron (BA.2.75.X)] prevalence globally

Based on reported sample collection date

Worldwide

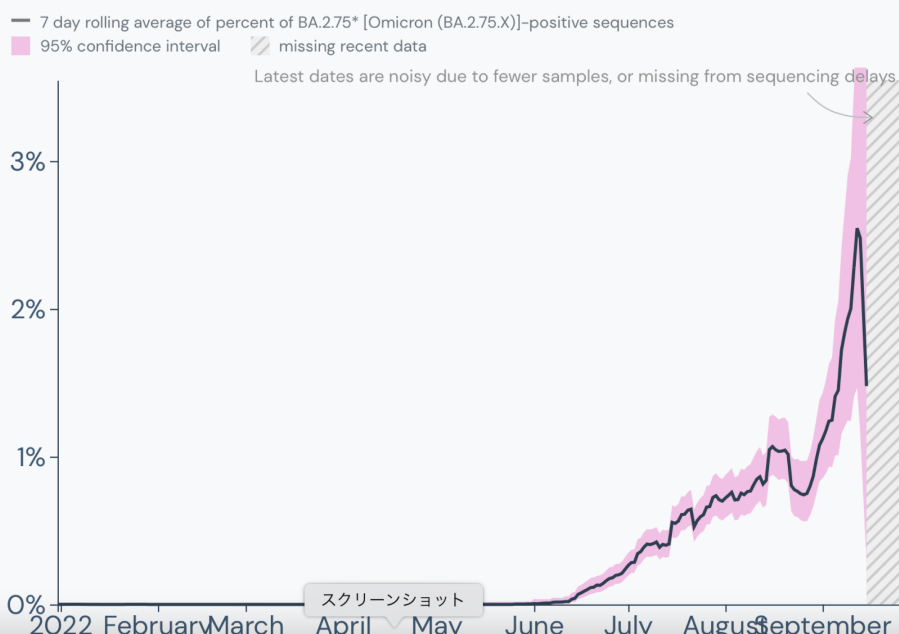
Japan

India

United States

South Korea

CHANGE LOCATIONS 

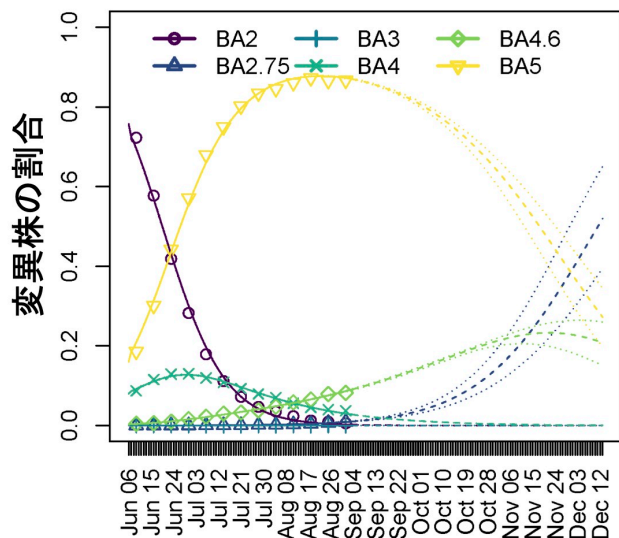


outbreak.info より2022年9月25日にDL



# Omicron派生株の伝播性(米国)

BA.2株と比べた相対的な実効再生産数の推定値



派生株	倍率	95%CI
BA.2.75	1.34倍	1.33–1.36倍
BA.3	1.09倍	1.07–1.11倍
BA.4	1.13倍	1.13–1.13倍
BA.4.6	1.26倍	1.26–1.26倍
BA.5	1.20倍	1.20–1.20倍

9月14日までにGISAIDに登録されている米国で分離された株に基づく。各株の世代時間を1.65日として計算。米国では、11月下旬から12月初旬頃にBA.2.75が主流となると考えられる。

AMED共同研究  
北大・伊藤公人教授との共同研究

Ito, Piantham, Nishiura, Math Biosci Eng, 2022, Doi:10.3934/mbe.2022418 の手法に基づく<sup>121</sup>

2022年月9月21日政府アドバイザリーボード資料3-3西浦先生資料抜粋